

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3190100747		
法人名	有限会社SKプラン		
事業所名	ぐるーぷほーむ和温		
所在地	鳥取市正連寺38番地3		
自己評価作成日	令和4年2月22日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp">https://www.wam.go.jp</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人いなば社会福祉評価サービス
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地
訪問調査日	令和4年3月11日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入所要件が歩行可能な方という事もあり、いつまでも歩けるよう特に下肢の筋力維持に努めています。出来る事は自身でして頂き、出来ない所をサポートします。時間が掛かっても手を出さず、見守りを行います。認知症の進行を緩やかにする為手指を使った、パズルや塗り絵、ちぎり絵等の手指訓練。歌、回想法の実施など様々な取り組みを行っています。季節に応じたレクリエーションや作品作り、食事メニュー等、季節を感じて頂けるよう心掛けてます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

鳥取市郊外の静かな住宅街に新設されたグループホームです。管理者も職員も理念を強く意識し、「いつまでも歩く」ことを目標に、利用者一人ひとりの能力を十分発揮できるような支援をを心がけています。利用者に対する日々のモニタリングはとても丁寧に行われ、それがきめ細かい介護計画につながっています。利用者は部屋にこもることなく、明るいリビングで思い思いに過ごされています。訪問時も、野菜の下ごしらえや盛り付けを、職員の方と楽しそうに行われているのを目にしました。管理者と職員の関係も良好で、情報はすべて共有し合いながら、より良いサービスの提供を目指して頑張っている様子がどこかで見えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	デイルームに掲示、職員がいつでも見えるようにしている。また、毎月のスタッフ会時、理念を確認している。	理念は、「いつまでも歩く」ことを目標に、具体的にイメージできるように作られている。毎月行われるスタッフ会でも理念の読み合わせを行い、日々のサービスに活かすことができるように努めている。	事業所の理念は、職員だけではなく、訪れた家族や業者など、誰の目にもつくような所に掲示すると思えます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響もあり、本来考えていた地域との交流は難しいが、感染対策を行った上での買い物や、同敷地内他事業所との交流等の外出を想定した行動を施設内でも行っている。	地域のお祭りや公民館行事、資源回収など、積極的に取り組む計画を立てられていたが、コロナの影響で中断されている。町内会には加入されていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本来地域の方を施設に招いて関わり方や支援方法を伝えていきたいと考えていたが、コロナウイルスの影響により行えていない。しかし施設宛に支援の相談があり、その際は電話や別室にて相談に合わせた支援方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為書面開催になっているが、その際頂いた意見を参考に施設内で話し合い、業務改善等サービス向上に繋げていくよう努めている。	コロナ禍のため、書面での開催になっている。活動状況や実績を報告しているが、回答は一部の同じ方になってしまっている。少ない意見からも、サービスの向上に繋がられるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は運営推進会議での意見を頂いております。今後はそれに加え、担当者と日頃の連絡の方法など相談していきたいと考えている。	包括センターとは日常的に連絡を取りあい、情報を共有している。疑問点や困難なことがあればいつでも相談できる体制が整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会ではスピーチロックも含めた身体抑制の研修の実施。欠席者には別紙にて伝達講習を行っている。研修で学んだ事は現場でも活かしており、現在はスピーチロックを含む身体拘束は行っていない状態である。	スタッフ会の中で、身体拘束について学ぶ機会を設け、具体的な禁止行為について正しく学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。参加できなかった職員にも文書を回覧し、共有を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について年2回の研修の実施し、理解と知識を深めていくよう努めている。また、日々の生活の中で対策や見直しが必要かどうかを話し合いを行い、虐待防止のための環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は実際に利用している方がおられる為、モデルケースとし職員にも分かりやすく説明している。実際に例がある為、職員も分かりやすいという反応だった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を取り説明を行い、説明後は不明な点が無いか確認している。また、契約以降に問い合わせがあった場合には改めて説明を行い、了承を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在家族様や利用者様からの意見や要望はない。今後そのような事があれば運営推進会議等で伝え、意見等を参考に運営に反映していきたいと考えている。	コロナ禍の中でも、受診の付き添い等で家族が来られたときは、積極的に話しかけ、意見や要望を聞くようにしている。また、プラン更新時等も郵送で行い、返信用封筒を入れて意見を聞くなど、きめ細かく取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から提案等あれば相談するよう周知している。また、全体で話し合う場も設け、意見交換や提案を聞き、業務に反映できるか検討できている。	管理者と職員の関係はとて良好で、日常いつでも気が付いたことを話し合える雰囲気がある。また毎月行われるスタッフ会でも活発な意見が出され、十分な話し合いを行った上で、運営にも反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価チェック表を半期に一度行い、向上心等の確認を含め環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実際と力量については、実際に一職員として業務に入り把握している。また法人内研修を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内での交流の機会を設けており、そこでの情報交換を日々のケアへ生かせるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様や本人様の心身の状態や思いを確認している。また家族等本人様と関わりのある人から、生活歴や病歴、趣味等を把握するよう努め、不安や思いを理解するよう努める事ができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前より、家族様や本人様の思いや要望を知り、実際の介護面でどのような対応をしていくかを説明し、了承して頂いてからサービスを開始する事ができている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前より一番必要な支援を確認し、提供ができている。また、必要な物と、実際に提供出来るものを結び付け満足して頂けるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の出来ることを見極め、何事に対しても職員が行うのではなく、利用者様と共に行うように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かな事でも連絡をとり、利用者様の状態の情報共有を行っている。コロナ禍で面会が難しい状況であるため、日々の様子等の写真を撮り、日々の様子を記した手紙等を一緒に送っている。今後家族様から本人様への支援で何か出来ないか検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会が難しい状況である為、対面は出来ませんが、手紙や年賀状等でのやり取りや、ドライブにより近隣へ行く等の支援を行い、馴染みの物から遠ざかる事がないよう努める事ができている。	利用者がそれまで住まれていた自宅の周りや、馴染みの場所をドライブしたり、手紙や年賀状等のやり取りをしてもらうなど、関係が途切れないような支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話しやすいまつ席の配置に気をつけたり、職員が間に入り円滑なコミュニケーションが図れるようにしている。職員見守りの元利用者複数人での食事の準備等作業を促している。その中でも利用者同士が支えあいながら作業を行っている場面が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等への入所の際には情報提供を行っている。ただそれ以降については支援を終了している。 同法人への入所については、フォローをおこなっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人様の思いや、要望を聞きながら実際の生活で活かすよう努めている。はっきりと答える事が出来ない方に対しては、日々の様子等からくみとったり、家族へ伝え、相談しながら思いに沿った生活に近づけるよう努めることができている。	一人ひとりの表情や言葉かけをした時の対応をしっかり観察し、少しでも喜んでもらえるような支援に努めている。日常のささいな変化も見逃さず、職員間でも共有し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供前より生活の様子を知る事が出来ている。また、サービス開始後も利用者との関わりの中や家族との関わりの中で、聞き取りをするようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録に、行ったこと、健康状態、その他を残している。また、職員間の情報共有も行い状態の変化等現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会で現状の確認と、課題抽出と対策を検討。それをもとに本人様の思いも含め、介護計画に反映させている。	日々の利用者の様子を、誰が見てもわかるように細かく記録している。介護計画は6カ月毎に見直し、体調変化があればすぐに見直し、家族や利用者の承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変わった様子は記録に残し、申し送り等で情報共有している。また、スタッフ会でも日々の様子について話し合い再度確認し、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様からの要望にに対して、必要時他サービスも含め、相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	どのような地域資源があるのかを情報収集し、それを適切に繋げる事ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設協力医院か、元々のかかりつけ医どちらかを家族様、本人様に選んでもらえるようにしている。かかりつけ医となった場合は連携をとり、適切に対応している。	かかりつけ医への受診を希望される方には、家族に付き添ってもらっている。地元の医院とも協力関係が築かれ、往診や相談に乗ってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常で気になった点などがあれば看護師へ相談、報告を行っている。また、看護師から生活の中で指導があれば介護面でも気を付けながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護連絡票を作成、本人様の生活状況等の詳細を提供している。また、病院だけでなく、家族様とも連携を密にし、3者で迅速な対応ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前より当施設では終末期や重度化の方は対応できない事を伝え、了承を頂いた上で入居される。入居後、今後重度化しそうな可能性がある場合には家族様への説明と共に他施設や事業所へ相談するようにしている。	入居時に、終末期の対応はできないことを伝え、了解してもらったうえで入居されている。容態が急変したり、入院が必要になった利用者には、家族とも十分話し合い、他施設や病院等を紹介できる体制も整っている。	終末期に向けた事業所の方針は、口頭での説明だけでなく、文書で説明し、正しく理解していただくことが大事だと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成、定期的な見直しを行うと共に、マニュアル以外にも緊急時対応の資料を作り目の届く所に置いている。急変時の対応については研修を実施し、実際に想定した訓練も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練、非常通報装置操作方法、通報訓練、火災時・水害時・夜間想定避難訓練を実施し、職員へ周知できている。避難訓練に関しては利用者様を含めた訓練を実施している。	同敷地内の他事業所とも協力し、様々な場面を想定した訓練が行われている。コロナの問題が収まれば、地域とも連携して行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへ誘う際などの羞恥心への配慮、声掛けの方法について日々気を配っている。また、スタッフ会の際に接遇についての話し合いを行い、より良い対応ができるよう心掛けている。	利用者には、常に尊厳とプライドを損なわないように気を配りながら支援に当たっている。スタッフ会でも話し合いを持ち、職員同士でも気を付け合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「～しましょう」の声かけは行わないよにし「～してみませんか」と問いかける形で声を掛け本人様の意思を尊重するようにしている。また簡単な問答で終わるような声掛けにも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間等大まかな時間の区切りはあるが、それ以外は個々を尊重し、希望に沿った生活が送れるよう支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪を実施。衣類については職員が準備せず、本人様と一緒に準備するようにしている。整容については声掛けを行い、本人が難しい場合は支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食以外は調理、盛り付け、後片付けを一緒に行っている。また不定期にデイルーム内で皆が行えるような鍋やホットプレートを使用した目の前での調理、そのまま食べるスタイル等の工夫をしている。	食事の下ごしらえや準備、後片付けを、利用者と職員が一緒に行っている。メニューも希望を聞きながら、旬の食材を取り入れるように心がけている。	職員も利用者と同じテーブルで同じものを食べると、食事の時間がより楽しいものになると思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や採血結果等を見ながら主治医と相談し、食事量、栄養状態の観察を行い調整を行っている。食事・水分摂取量は毎回記録に残し嗜好の判断も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後職員が付き添い、見守り、必要に応じ介助を実施している。定期的に義歯や用具の清掃も行っている。また必要に応じ歯科往診を依頼している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方や、声掛けによって失禁を予防できている利用者に対して、排泄表を活用しパターンの把握、適切な時間に声を掛けるようにしている。また失禁予防体操を取り入れ実施している。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な誘導を行っている。失禁がなくなった方や、オムツが取れた方など、自立に向けた効果的な支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水量の把握と飲水の促し、トイレに座る時間の習慣化、排泄時の姿勢を工夫しつつ対応している。主治医の指示があれば下剤使用、上記対応でも便秘が続くのであれば使用し便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日は固定しているが入浴は1日かけて行う為、好きな時間帯に入れるように配慮している。また、拒否がある時は日にちをずらすなどの本人様の希望に沿った対応を行っている。	定められた曜日以外でも、利用者の要望に合わせて入浴支援が行われている。基本的に介助も同性が行うなどの配慮もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、その方にあつた時間に横になってもらうようにしている。また、照明、温度に配慮している。日中の休息についてもいつでも横になれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも見える場所に置き、確認できるようにしている。変更があつた際は内容を記録に残し、必ず確認するようにしている。居宅療養管理指導を利用した薬剤師からのアドバイスをもらうようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を把握しつつ、それに関連付けての活動、家事等へ結び付けて働きかけをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナで遠出などの外出は自粛しているが、感染予防を行った上で施設周辺の散歩や、ドライブで外出機会を作っている。	コロナ前は、外食や散歩、様々なレクリエーションが行われていたが、現在は中止の状態である。いつまでも歩けることを大切にしているのので、施設内や敷地内をできるだけ歩くように心がけた支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の方針で金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望があればいつでも掛けれるようにしている。手紙等はレクの一環で書いたり、年賀状等のやり取りを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には季節感を感じてもらえるよう毎月違ったちぎり絵を作ってもらい、それを飾ったり、写真を貼ったりしている。テレビの音量、明るさ、温度、湿度にも注意している。	共用の空間は明るく清潔に保たれ、居心地がいいのか、ほとんどの利用者の方が日中はリビングで過ごされている。壁には季節を感じる利用者の作品や写真等が飾られ、空調にも配慮されているのがうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席以外にソファを配置し、どう過ごすか選択できるようになっている。1人で座ったり、複数人で座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への家具の持ち込みは制限を設けていない。配置も自由にしてもらっている。写真や自作の絵等の飾りも行っている。	居室は思い思いの家具や使い慣れた物が持ち込まれ、快適に過ごせるように工夫されている。清掃も行き届き、明るく、空調も整っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を付け分かりやすくしている。それ以外にもトイレは横からも見やすいように立体的な表札を設置。建物内もすぐに手が届くように机、椅子、手すりを配置している。		